令和３年度　第７学年　立志式　挨拶

多久市立東原庠舎中央校　下村昌弘

７年生 84 名の皆さん、立志式、おめでとうございます。

本日ここに、学校運営協議会の佐山光芳様、ご講演いただく中野義文様のご臨席を得て開催できることをとてもうれしく思っています。

本校ではこの立志式を中学年ブロックの節目としてとても重要な式典と位置付けています。ここには７年生しかいませんが、オンラインで５年生、６年生も視聴してくれています。

さて、皆さんは６年から７年に上がる時も大きな節目を感じたことでしょう。制服が変わり、校舎が変わり、教科名が変わり、、、。しかしそれらはいわば外からの変化でした。

今、７年の終わりに当たり、昨年以上に意味のある変化の時を迎えています。それは、内側からの変化、内面の変化、精神的な自立という節目です。

この精神的な自立の時に必要なものは何か。それが「志」です。

さて、江戸時代末期の儒学者である佐藤一斎は『言志禄』の中で、「志」について次のように記しています。

「　志を立て、これを求めれば、たとえ薪を運び、水を運んでも、そこに『道』はあって、真理を自得することはできるものだ。まして、書物を読み、物事の道理を窮めようと専心するからには、目的を達せないはずはない。しかし、志が立っていなければ、一日中本を読んでいても、それは無駄ごとにすぎない。学問をして聖者になろうとするには、志を立てるより大切なことはない　」

ここには「志」のもつ意味が端的に語られています。

「志」がなければどんな恵まれた環境であろうと何事もなしえず、逆に「志」があればどんな局面におかれても人は成長できるのです。

では、その「志」とは何なのか。

皆さん一人一人にはかけがえのない個性と能力があります。５年、６年、７年という中学年期の３年間を振り返ってみてください。

進級するにしたがって、あなたの見える世界は、自

分を中心としながらだんだん広がってきましたね。幼いころには自分のすぐ周辺しか見えなかった世界が、今では直接見えない世界にまで広がってきたことだと思います。それはあなたの生きる世界が広がってきたことを意味します。

その広がってきた世界の中で、あなたが人のために、社会のためにできることは何なのか。それが「志」です。「志」は「夢」とは違う。「夢」は自分だけのもの。「志」は自分のものでありながら人のためのものでもあります。

今日はその「志」を自分の言葉で語ってほしいと思います。そしてそれが、これから迎える８年生、９年生という高学年期を強く生き抜く時の一本の柱、「信念」として自分を励ましてくれるはずです。そして、佐藤一斎のいうように、その「志」があれば、何をしていても「道（真理)」が見いだせるはずです。

Where there is a will, there is a way.　意志あるところに道は拓ける。

人生をやり直すことは出来ませんが、人生を新しく始めることはいつでもできます。

また、言うまでもありませんが、今日語った「志」が、折に触れ、修正され、アップデートされていっても構いません。いやむしろ、そうすることが前向きな人間としては当然のことかもしれません。

「言霊（言葉には霊的な力が宿る)」という言葉もあるとおり、言葉にすることは、その言葉の実現へ私たちを導いてくれます。まずは言葉にすること、それを表明することに意味があります。自分の思いを仲間に聴いてもらうとともに、仲間の思いを温かく受け止めてほしいと思います。

皆さんの自立に向けた今日の一歩を心から喜び応援したいと思います。頑張ってください。